

各 位

令和2年8月15日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



キキョウ



カワラナデシコ



レンゲショウマ



ヒオウギ

夏の終わり 秋を感じる野草園

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる」

古今和歌集より

立秋を迎えた野草園。「七草の庭」には、秋の七草である黄色のオミナエシ、青紫色のキキョウ、ピンク色のカワラナデシコの花が沢山咲いています。また、橙色のヒオウギ、薄紫色のレンゲショウマも彩を添えています。

立秋とはいえ暑い日が続く毎日ですが、野草園は標高550mほどあり、市街地より気温が3~4度低いので街中よりは過ごしやすくなっています。蔵王の風が吹き抜ける木陰をたどり、湿地の木道を抜け、「七草の庭」に足を運んでみませんか。

蝉の鳴き声の響く木陰のベンチに座り、咲き始めた秋の七草を愛でながら読書してみるなどというのも素敵な時間です。

そんな非日常のひと時が、私たちの心を豊かにしてくれることでしょう。

《 開園時間短縮のお知らせ 》

6月1日～8月31日は午前9時から午後6時まで開園予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策及びクマ侵入に備えた安全確保のために、午前9時から午後4時30分までの開園時間となっています。尚、入園は午後4時までです。

※9月以降の開園時間も午前9時から午後4時30分となります。

《 屋内施設再開のお知らせ 》

「自然学習センター」と「カフェやまぼうし」は7月2日から再開しています。

換気や人が触れる物のアルコール消毒を十分におこなっていきます。また、テーブル、イスを減らし、十分な間隔を取れるようにしています。

「カフェやまぼうし」木曜日・土曜日・日曜日・祝日に営業

営業時間 午前11時～午後2時

来園前にホームページ又はお電話でご確認ください。

(<https://www.yasouen.jp>) (023-634-4120)

◆◆◆8月後半に見られる主な花たち◆◆◆



キキョウ（キキョウ科）

日当たりの良い山地や野原などに生える多年草です。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。根は太く黄白色をしており薬用とされています。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



オミナエシ(スイカズラ科)

日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭く、尖ります。茎は上部で枝分かれし、黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。種子で増えるのはもちろん、地下茎を横に伸ばして増える栄養繁殖もします。そのために黄色い花がしばしば群生しています。満開になると独特な匂いがします。



カワラナデシコ（ナデシコ科）

各地の山野に生える多年草です。葉は対生し、線形または披針形で基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は優美です。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月に咲き始めます。河原のような日当たりの良い所に生え、可憐な花の様子を撫子に例えたことが名の由来です。



フジバカマ (キク科)

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに野生する多年草です。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっています。



レンゲショウマ (キンポウゲ科)

本州の太平洋側などの深山に生える多年草で、日本固有種です。葉は大形で複数回枝分かれし、小葉は卵形です。茎の上部に淡紫色の花をまばらに下向きにつけます。花の外側は花弁状の萼片で、内側にある花弁は先が紫色をしています。花がハスに、葉がサラシナショウマに似ていることが名の由来です。



ヒオウギ (アヤメ科)

山地の原野に生える多年草です。観賞用としても栽培されています。葉は広い剣状で扇形に並び、多少白っぽく見えます。夏に茎が何度も枝分かれし、枝の端に有柄の花をつけます。花被片は6個で水平に開き、楕円状でへら形、黄赤色で内側に濃い暗紅点が多数あります。葉の並び方が桧扇に似ていることが名の由来です。



フシグロセンノウ (ナデシコ科)

山地に生える多年草です。茎の節は太く、紫黒色を帯びています。葉は対生し、卵形または楕円状披針形で先はとがり、縁に毛があります。茎頂に橙色の花を開きます。花弁は5個で倒卵形です。仙翁とは京都嵯峨にある寺の名で、そこで栽培した花と似ていて、節が黒いことが名の由来です。



オトコエシ (スイカズラ科)

山野に生える多年草で、茎に毛が多いようです。葉は対生し、多くは羽状に分裂、裂片は卵状長楕円形になります。茎の上部に小さい白花を散房状に多数つけます。果実は倒卵形でまわりが翼状になります。オミナエシに対して、茎が太く毛があり強剛に見えることが名の由来です。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てたことが「曙草」の名の由来です。



サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などになります。



カリガネソウ(シソ科)

山地や原野に生える多年草です。近くによると臭気します。茎の断面は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生します。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長くて、花冠から飛び出すのが特徴です。花の形が雁(かり)の姿に似ることが名の由来です。



ツリフネソウ(ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節はふくらみます。草丈は50cm程度で、茎の先に数個の花をつり下げます。花は紅紫色で、距は著しく後ろに突きでて渦巻き状になります。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。花器の釣船を下げたように見えることが名の由来です。



ツリガネニンジン(キキョウ科)

日当たりの良い山野の草地に生える多年草です。葉は楕円形で、3~4枚輪生します。高さ1m程の茎の上部に淡紫色の釣鐘形の花を数個、輪生に釣り下げます。萼は細くて、雌しべが花から突き出ています。大きな根は薬用に利用されます。花の姿を釣鐘に、大きな根を朝鮮人参に例えたことが名の由来です。